

1 宗教と紛争の関係性

世界各地で発生している宗教紛争などが本当に宗教の影響で引き起こされたのかについて調べてみたいと思ったので、近年話題になっているイスラーム教と関連性があるのではないかと思い、自分はパレスチナ問題について着目することとした。またそれらの紛争によってイスラエル・パレスチナにどのような影響がでたのかということも述べたいと思う。ここで宗教紛争とはお互いに異なる宗教を信仰している者たちの価値観、考え方の違い、または多数派による少数派の弾圧が原因となって起こる争いを示すものであるということを明記しておく。

2 イスラエル・パレスチナ問題

パレスチナと呼ばれる地域に住むユダヤ人とアラブ人(のちにパレスチナ人と呼ばれる)がパレスチナの領有をめぐる引き起こされた争いである。この地域にあるエルサレムはユダヤ教、イスラーム教、キリスト教の三宗教の聖地とされており、そのためパレスチナ問題も「ユダヤ教とイスラーム教の宗教的対立である。」と説明されやすいのだが、実際この要因はパレスチナ問題のほんの一部にしか過ぎないのである。

発端となったのはイギリスの二枚舌外交である。ユダヤ人、アラブ人の両方に国家をつくるための援助をする代わりに資金援助を申し出た。これにより両民族の対立が始まっていく。このような歴史背景によりパレスチナ問題が起こったのである。

それでは近年のパレスチナ問題について述べたいと思う。

近年ではイスラエルとパレスチナがお互いに攻撃し、またその報復行為が幾度となく繰り返されている現状である。ここでは2008～2009年のガザ紛争について述べたいと思う。

3 ガザ紛争

ガザ紛争は第四次中東戦争以来の死傷者を記録した紛争である。特にパレスチナ側では約1300人以上が死亡し、またその大部分は一般市民であり、そのうちの1/3は子供であり未成年者の死傷者が格段に多い紛争となった。これに対しイスラエル側では死亡者は13人となっている。このような紛争が引き起ってしまった一つの理由に土地に関する問題があるように思われる。もともとガザ地区はアラブ系のパレスチナ人が住んでいた場所である。しかし中東戦争の際にイスラエルはエジプトが支配していたガザ地区を占領してしまう。これによってパレスチナ人はガザ地区から追い出されてしまう。しかし、その後の中東和平会議によってイスラエル軍およびユダヤ人はガザ地区から追い出されることになるのだが、それを不満に思うイスラエルがガザ地区を奪取しようと攻撃を仕掛けていることが原因であるといえる。また政治的背景も原因ではないかと思われる。イスラエル側では選挙が間近であったために強硬派勢の票を獲得するために、ハマース側(ガザ地区

を支配しているイスラーム原理主義組織)はイスラエルの非情さを世界にアピールすることで世界からの同情を得て支援を受けようとしているなど実際の土地に関する問題でなく政治的な思惑が絡んでいるとされている。このようにしてガザ紛争は引き起こされ、イスラエル軍によるガザ地区に対する大規模な空爆、地上侵攻などにより多くの死傷者が出る事態となってしまった。またそれに加えてイスラエル側からの市民への無差別攻撃、国連が運営していた避難所であった女子校への無差別空爆など数々の戦争犯罪が明らかになっている。またイスラエルは2014年にもガザ侵攻を行っており、これにおいても人道問題が多い行動が発生している。またこのガザ侵攻においてはユダヤ系イスラエル人少年3人の誘拐、その後殺害される事件が発生したことに対し、イスラエル側が犯行はハマース関係者と断定し、それによる報復行為がきっかけであるとされている。またイスラエルとハマース側では圧倒的にイスラエル側の死傷者が少ないこと、また軍事力に大きな差があるためにイスラエルがハマース側を一方向的に攻撃しているようにマスメディアは報道がちである。またこの少年3人誘拐殺人事件後、イスラエル極右勢力によってパレスチナ人少年を拉致・殺害するという事件が発生している。ガザ侵攻が始まったきっかけは上記のような出来事であるがイスラエル側が侵攻した目的の一つには地下トンネルを破壊することが挙げられている。ガザ地区にはエジプト側やイスラエル領内につながる1000本以上の地下トンネルがあるとされている。この地下トンネルを通じてハマース側は戦闘員を送り込んだり、支援物資の密輸を行ったりしているため、イスラエル側はトンネルの破壊をすることでハマース側の勢力の弱体化と武装解除につながると考えていた。このような経緯をもって2014年8月16日に双方の攻撃停止などの内容で無期限停戦することで合意した。

4 イスラエル・パレスチナ問題を調べてみて

上記のようにイスラエル・パレスチナ問題について調べた結果、この紛争の被害者の多くは未成年であり、また子供が多いということを知った。また実際に被害にあってなくても絶え間なく続く空爆におびえ心理的な被害を受けている子供も多いという。なぜ本来守られるべきである存在の子供たちがこのようなことにならなくてはいけないのか、子供達は何の関係もないはずである。紛争自体は停戦しているがいまだにガザ地区での被害者は増え続けている。このような争いによる被害者のために自分たちにはどのようなことができるだろうか。現にユニセフなどはガザ地区において給水サービスや新しい水のインフラ整備、学校の修繕、学校で勉強をすることが出来ない子供たちの学習支援など様々な支援活動を行っている。個人でこのように支援活動することはできないかもしれないが支援活動につながるなにかをすることはできるかもしれないと思う。ガザ地区の子供たちは決して希望を失ったわけではない、勉強や生活が満足にできない状況下ではあるがそんな中でも子供たちはいつか復興出来る日のために必死に生きているのだ。そんな彼らのために少しでも出来ることから協力していくべきであると感じた。